全個連会報
特別号
平成１５年
１月１１日
発行責任者
加藤幸次

もう一つの実践・国際交流

第12回　海外研修　(中国)報告

東北師範大学付属小学校を見学

個別化・個性化教育に向かう中国

上智大学　　加藤幸次

世界の目は、確実に中国に注がれている。経済はＮＧＰ成長率約２５％と言う。日本のバブル期より高いという。長春という中国としては地方都市でありながら、いたる所工事中である。

吉林に向かう高速道路は、車は少ないものの、アメリカのハイウェーそのものである。一方で田舎の貧しさは昔のままのようである。ハイウェーの出口で沢山の農家の人たちが小さなリンゴやブドウを売っている。安さに驚く。

東北師範大学付属小学校は、旧満州の文部省だった建物である。そこで見せていただいた「授業」は、まさに、日本が置き去ってきたそのものである。中国では、授業という字の代わりに「教学」という。まさに「啐啄同時」である。６０人を越える子供たちが、一人の教師の「指示と発問」に、一糸乱れず従っていく。きっと、教材研究が良くなされているのであろう。教師の一挙手一投足に子供たち全員が従う。答える声もはきはきしている。

それは、私たちが明治時代以来探し求めてきた、まさに、「一斉授業」なのである。教師がすべてをコントロールした見事な授業である。

しかもパワー・ポイントを用いた「現代化」された授業である。これこそ教師の冥利に尽きる。ならば、このままで良いのではないか、そう思われる。

しかし、オープン・スペースをもった新校舎が横に建設中である。多分、一人っ子政策もあり、子供たちが「変化」しているのではないかと想像される。多分、教師中心のこうした授業では、もはや、切り抜けて行けないと感じられているのであろう。ちなみに、「啐」は殻の中で雛がつつく音、「啄」は母鶏が殻をかみ破ることをいう。「 啐が先で啄は後」であることに注意を要する。キジの孵化に挑戦し、成功させた友人が言うに、「雛は自分で殻を破って出てくる」と言うことである。

私たちが見たものは、過去のイリュージョンだったのかも知れない。「子供たちに合わせた、新しい授業」が求められて行くのであろう。

良い機会に恵まれた。感謝である。

東北師範大学付属小
熊梅校長先生を囲んで

中国の小学校教育

上智大学修士課程　　王　咏梅

中国では、小学校の新学期は、毎年の秋で、８月の下旬から、全国の小学校は次々と始まるのである。１年間を上学期と下学期という２つの学期に分けている。子供たちの年間の授業に数は３５週間で、上、下学期の終わるころには、期末試験があり、２週間かけて、期末復習、試験を行う。学校の各種の活動や祭りなどの時間は２週間で、長期間の冬休みと夏休みが２つあり、ほかの祭日とあわせて、年間に１３週間である。小学校のカリキュラムは図１のようである。↗

↘これは２００１年の秋から実施し始まった新教育課程である。国語、数学、体育、芸術は１年から６年まで設けられ、芸術という科目は音楽と美術を合科したものである、芸術と音楽、美術ををどちらかにするかは学校側が選択権を持っている。

外国語は原則的には三年からなのだが、１年からの学校も少なくない。今回の新教育課程は道徳と生活、社会と合科にして１、２年で道徳と生活、３年から６年まで道徳と社会という科目が設けられ、以前の自然という教科を科学という教科に変わった。

図１　義務教育課程設置表

	学級					
課程種類	一	二	三	四	五	六
	道徳と生活	道徳と生活	道徳と社会	道徳と社会	道徳と社会	道徳と社会
			科学	科学	科学	科学
	国語	国語	国語	国語	国語	国語
	数学	数学	数学	数学	数学	数学
			外国語	外国語	外国語	外国語
	体育	体育	体育	体育	体育	体育
	芸術（あるいは音楽、芸術を選択する）					
			総合的実践活動			
	地方と学校課程					

日本の総合学習にあたると考えられる総合実践活動は３年生からで情報教育、研究的学習、ボランティアと社会実践、労働と技術教育という４つの内容になっている。そのほか、地域、学校、子供の実態に応じて、朝礼や少先隊（共産党の少年予備軍みたいの組織）活動や祭りや科学技術文化、体育活動などの自分なりの教育活動も自主的に行っている。↗

↘中国のの小学生の学校生活はどういうふうになっているかっというと、図２のような時間割が一般的である。

中国の小学校は、週５日制で、子供たちの学校生活はとても忙しい。朝、当日の当番生たちは早めに学校に来て、朝の清掃をする。授業が始まる前に、朗読の時間があり、その時に国語や英語の授業で勉強したものを復習したりする。

図２ 東北師範大学付属小学校の時間割表

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td>7:40</td><td rowspan="2">国旗の
掲揚式</td><td colspan="4"></td><td rowspan="17">少先隊クラブ活動</td><td rowspan="17">休み</td></tr>
<tr><td>7:50</td><td colspan="4">朝の朗読・清掃</td></tr>
<tr><td>8:00
8:40</td><td colspan="5">１時限
休憩</td></tr>
<tr><td>8:50</td><td colspan="5">予鈴</td></tr>
<tr><td>8:55</td><td colspan="5">２時限</td></tr>
<tr><td>9:35</td><td colspan="5">休憩</td></tr>
<tr><td>9:40</td><td colspan="5">ラジオ体操</td></tr>
<tr><td>9:55</td><td colspan="5">３時限</td></tr>
<tr><td>10:35</td><td colspan="5">目の体操</td></tr>
<tr><td>10:40</td><td colspan="5">休憩</td></tr>
<tr><td>10:50</td><td colspan="5">予鈴</td></tr>
<tr><td>10:55</td><td colspan="5">４時限</td></tr>
<tr><td>11:35</td><td colspan="5">昼休み</td></tr>
<tr><td>1:10</td><td>予鈴</td><td rowspan="12">総合実践活動</td><td colspan="2">予鈴</td></tr>
<tr><td>1:15</td><td>クラスのショットミーティング</td><td colspan="2">クラスショットミーティング</td></tr>
<tr><td>1:25</td><td>５時限</td><td colspan="2">５時限</td></tr>
<tr><td>2:05</td><td>休憩</td><td colspan="2">休憩</td></tr>
<tr><td>2:15</td><td>予鈴</td><td colspan="2">予鈴</td></tr>
<tr><td>2:20</td><td>６時限</td><td colspan="2">６時限</td></tr>
<tr><td>2:50</td><td>休憩</td><td colspan="2">休憩</td></tr>
<tr><td>3:00</td><td>予鈴</td><td colspan="2">予鈴</td></tr>
<tr><td>3:05</td><td>７時限</td><td colspan="2">７時限</td></tr>
<tr><td>3:35</td><td>清掃、放課</td><td colspan="2">清掃　放課</td></tr>
<tr><td>3:40</td><td>学校塾</td><td colspan="2">学校塾</td></tr>
<tr><td>4:30</td><td>帰宅</td><td colspan="2">帰宅</td></tr>
</table>

毎週、月曜日の朝は国旗の掲揚式を行い、勉強や規律・礼儀など生活面でよくできた子を誉めてあげたりする。

午前中は４時限の授業を行い、１時限４０分である。午後は５、６時限目の授業を行い、それから班活動や総合的実践活動やクラブ活動などが行われる。

学校は普通３時半から４時ごろ終わるが、これから学校の塾が始まる。塾へ参加は原則的に子供と保護者の希望によるが、ほとんど参加しているのが現実である。土、日曜日はクラブ活動をやる学校もあり、学校の活動のない子供たちでも、いろんな塾で勉強に励んでいる。

中国の授業を見た感想

❀　❀　　千葉・湯浅正幸

教師からのあふれる笑顔。次に何が起きるのかと教師の一挙一動を見守る子供たち。中国での授業参観は、教師・子供からあふれる熱気に圧倒され続けた。

今回、中国の東北師範大学付属小学校にて、国語、算数、英語、音楽、体育など様々な授業を参観した。授業の形態としては、日本でお馴染みの一斉授業である。

授業を見た第一印象は「教師が授業を楽しんでいるな」と感じた。教師のもつ教材への熱意で子供をぐんぐん引っ張っている姿が印象的であった。中国の小学校は日本とは違い、１クラスあたり、５０～７０人もおり、教科担任制をとっている。そのような状況にあって、中国の教師は、数多くの子供たちを授業に引きつけるのに四苦八苦しながらも、教科担任制を生かして教材研究を徹底的に行い、自信をもって授業に臨んでいる。

導入を工夫したり、実物を見せたり、子供の集中力が切れ出したころに、遊戯を入れたり、と子供を飽きさせないテンポで授業を展開している。

教師の情熱や自信が表情・身振りで・手振りからあふれているのである。そのため、子供たちは教師の一挙に大喜びし、一言に対しては敏感に反応して質問を発している。

現在、中国でも「開放教育」という名のもとに日本でいう総合教育を押し進めている最中である。たとえば、私たちの参観した小学校の場合、インタビューや文献をもとに地域の湖の歴史に調べたり、植物や水など環境について調べたりしている。

しかし、総合にお いても、教科においても根底になるのは愛情と自信であることに変わりはない。「知識重視から実践力重視へ」「子供の個性重視」と時代 の流れにつれて変えて行かなければならないものはある。しかし、忘れてはならないものも存在するのだと教えられた３日間だった。

個性化教育の日中交流元年を祝う

上越教育大・　和井田　清司

今回の研修旅行は、中国開放式・個性化教育研究センター(東北師範大学附属小学校内に設置)の招聘で実現し、個性化教育における日中の共同研究の始まりを意味するものである。日中国交回復30周年の記念すべき年に、このような交流が実現したことをともに喜びたいと思う。ここで、公開研究会の内容を紹介する紙幅はないが、熟達した教師たちと意欲的な生徒たちによる公開授業や未来を展望した研究報告はともに熱気あふれるものであったことは指摘しておきたい。

ところで、1990年代以降の中国は、政治経済体制において社会主義的市場経済の実践に挑戦している。社会主義的政治と市場（資本）主義的経済の結合は、木に竹を接ぐ試みといえなくもない。だが、経済活力と政治統制は、今日の中国当局にとって共に不可欠の条件となっている。その顰みにならえば、今日の中国的教育改革は集団主義教育の伝統と個性化教育の新層を結びつける実験のように私には感じられた。開放式・個性化教育の表層の土壌に集団主義の隠れたカリキュラムのパワーが位置付いている。

カリキュラム改革に内包する集団主義と個性化教育の二重原理も注目すべき点であるが、同時に、国立エリート校と一般公立校、公立校と私立校、都市の学校と農村の学校、多数民族の教育と少数民族の教育---それらの間に横たわる格差の二重構造も大きな課題のように思える。とはいえ、異質なものを飲み込む巨象の胃袋のようなスケールが中国の魅力と言うべきだろう。

それにしても、教育改革をめざして欧米や日本の理論を積極的に導入し、中国風にアレンジして大胆に実践化する姿勢には活力を感じる。その改革の先頭に、30～40代の研究者や教育行政の担当者が立っている。若きエリートの牽引が改革のパワーとなっている。その背景には、壮年世代の欠落という形で文化大革命による「失われた10年」の傷跡が今も尾を引いており、伝統の継承と革新とのバランスが課題となっているように感じた。

末筆ながら、至れり尽くせりの歓迎をいただいた熊梅先生や附属小学校の皆様、及び通訳のみならず生活全般にもご配慮いただいた王咏梅さんに心からの「謝謝！」を贈りたい。

中国研修旅行の思い出

東京学芸大学・浅沼 茂

昨年の上海に続き、中国訪問は今回で３度目であった。失礼だが、飛行場に降りたって町に向かうとき、ロバの荷馬車がのんびり車の横を走っているのを見たとき、上海よりは遅れているなと感じた。

しかし、ホテルに行く途中の街の景色を見たとき、旧植民地時代の残した道路や建物の遺産の大きさに感嘆せざるを得なかった。

しかも、上海同様、長春も大きなビルディングの建設ラッシュであった。長春は、映画祭の最中であるという、そういえば、ロバの荷馬車の横を真っ赤なオープンカーが走っているのを見た。この光景は、現在の中国を象徴していると感じた。

このような新旧のコントラストの光景は、現在の総合学習についても言える。中国では、別な呼び名で昨年から全国一斉に始めたという。

上海では、世界一高いビルディングの建設計画がある。そのデザインを２年前に聞いたことがあるが、真ん中に大きな穴が空いている。ポストモダンであると言う。オープンスクールは、建築学上はモダンの仲間に入るらしいが、今や中国は、それを超えて建築の最先端を行こうとしている。

研究会で日本の総合学習は、モダンの枠内で実践を推し進めるものであるが、その実践の形は、前近代的な教育方法で五感を大切にするような学習である、と説明して結構受けたことがある。

でも、中国では少しその考え方は異なる。東北師範大学付属小の実践を見ても感じられたが、総合は基礎の上にある発展学習としてとらえるような傾向がある。かつての労働教育のイメージと重ねないようにという配慮なのだろうか。

日本では、ゴミ拾いなど特別活動と一緒にされないよう配慮することが注意されているが、中国では、環境教育など新分野の学習というようなイメージである。

ともかく、大きくは、マルクス主義の原理を額面上残したまま、実践としては新旧混在のままの総合学習なのである。

大連は、長春とは異なり、ロシア風のモダンな感じの街であった。通訳の王さんのおかげで、いろいろな所を見せていただいた。港町のせいか活気がある。山あり海ありで景色がとてもきれいな街で、北の香港と呼ばれているそうだ。産業特区では、日本の企業も含め外資がたくさん入り込んでいた。

また、そのそばの新興団地では、新興ブルジョア層が海水浴をエンジョイしているのを見た。江沢民がよく来るというゴルフ場の回りは、まるでアメリカの郊外の中を走っているような感じであった。

そして、一日かけて日露戦争の激戦地、旅順を尋ねた。水師営での乃木希典とステッセルの会見場所跡、そして二〇三高地を尋ねた。頂上に立って、ロシア軍のトーチカ前の塹壕跡を歩いて多くの兵士の血を吸い込んだであろう小さな石を拾った。若かりし頃、司馬遼太郎の『坂の上の雲』を感動しながら読んだ私としては感慨ひとしおであった。

でも、記念館の説明板に「戦争犯罪の記念碑として私たちは忘れてはならない」と最後に結んであったのを見たとき、改めて立場が変われば評価が異なるものであるということを感じた。

それから、王さんのかっての同僚など地元の教師たちの会合で、普通の学校での実践の現実についてうかがった。会合に来てくれた教師たちは、その価値を十分認めていたが、総合学習は、普通の学校ではとても難しいという話であった。この意見自体、日本の状況と似ていると思った。旅順からの帰途、全寮制の海南学校にに立ち寄った。丘の中腹に建つこの巨大で立派な私立学校は全国に幾つかあるという。寮に連れてこられた子供が親と離れるのがいやで泣いているのが印象的であった。

移りゆく中国の教育の点描

愛知・成田幸夫

今回の訪問の主目的は、中国国家基礎教育実験センターが催す日本の「開放式」教育の理論実践に紹介する合同研修会に参加することにあった。

出発前の下調によれば、中国の小学生・中学生の就学率はそれぞれ９９．１％・８８．６％で、義務教育はかなり普及してきている。

２００１年、秋に基礎教育の充実を旗印にカリキュラムが一新され、「科学」「歴史と社会」「体育と健康」「芸術」「総合実践活動」などが新たに加わった。カリキュラムは国が全体の８０～８４％の科目を決め、その他は地方と学校が自主運営する「三級管理」システムが採用されているという。

同時に、教育部は小学校３年生から英語教育を導入する（参観した付属小では１年生から英語の授業をしていた）ことに決め、ゲームや歌などを中心にして英語に興味をもたせ、語感を養うことに主眼を置いた教育が進められている。

到着初日のレセプションで、私は通訳の王さんを通して直截に気になっていることを師範大の先生に尋ねてみた。

「個性化教育とは、個人のこだわりを尊重して学びを進めることだ。この種の教育を進めるということはお国の体制を揺るがしかねないと思うのだが、本当に国策として開放式個性化教育を進めるのか？」。

師範大の先生は微笑みながら明快に答えてくれた。「今や私たち大学の教官の過半数は党員ではない。１２億の生活を守り、世界の人たちと生きていくためにはこの教育方法しかないと国家が判断したのだ。」

翌日からは、ハードな授業参観が待ちかまえていた。東北師範大学は、１７の学部・４０の専攻科と大学院をもつ教員養成系の総合大学で、約１万人の学生がいる。学内には、国家基礎教育実験センターの他に全国小中学校教師継続教育研究センター・全国現代教育技術養成センターなど、中国教育の先導的リーダーとしての役割を果たしている国家レベルの機関がある。

小学教育呼吸

中日教育专家聚首东

本报讯 （记者蒋蕾）小学教育需要开放式、个性化教育，26日在东北师大附小举行的中日开放式个性化教育研究交流会上，中日教育专家对此进行了深入研讨。

“教育要以人为本，人是有精神的、有个性的，所以要因材施教。当然，‘成批加工’是最省钱的，但科学发展越来越需要个性化的人才……”东北师大校长史宁中在会上的发言引起大家的深入思考。

盟会会长加藤幸
回顾了开放式学
开放式、个性化
开教室间、教师
学校与社区间等
科知识之间的整
育专家和国内7
专家纷纷在研究
东北师大附

今回の研修会にも中国全土から優秀な教員と思われる約３００人が集まっていた。おしなべて授業の質は高く、高学年になるとプレゼンテーションにパワーポイントを駆使して堂々と発表していた。選ばれたエリートの付属小の児童であることを差し引いたとしても、ものおじしない活発な子どもたちには圧倒される。ただし１～２学級合同の集団授業ばかりで、どこに個性化教↗

开放式个性化

师大附小研究这一课题

·性化教育研究联
:在研究交流会上
:展历程，探讨了
特点，主张要打
生间、学科间、
墙壁”，加强学
自日本的8位教
的三百余名教育
上发言。
放式与个性化教育作为学校的办学特色，围绕“学科中的研究性学习”开展了一系列活动。在研究交流会期间，东北师大附小针对“南湖的学习”主题研究性学习活动进行总结，将孩子们的研究结果结集出书。

左图为《南湖的学习——师生共创的研究性学习》一书的封面。该书汇集了二百余篇小学生的实践研究成果，全面地展示了孩子们以南湖公园为学习对象所进行的观察、调查、比较、体验等。

↑今回の中日開放式個性化教育研究会は、上記のように中国の新聞にも報じられた

←理科の授業で手際よく実験を進める六年生

↘育にこだわった形態や方法があるのかは、最後まではっきりしなかった。算数科の授業でも、確かに生活単元風な味付けはしているものの特別に工夫された指導というわけ↗

↘でもなく むしろこれまで続けられてきた教科書を繰り返し読むいわゆる「教科書暗記法」から脱却させることの提案にとどまっているようにも見えた。

指導には、付属小の教官（中国は小学校から「学科目別担当制」が取られている）のほかに大学の教授や本科生・院生などがあたっているとのことで、とりわけ音楽などの芸術教科のレベルの高さが印象的だった。

南湖的学習」（「南湖」は、旧満州時代のイフラ整備の一環として現長春の南西部に当時の日本が建設した広大な人造湖）と名付けられた総合学習では、日本の多くの学校が抱える課題そのままを見る思いがした。

動植物・歴史・自然・環境といったテーマごとに分かれ、グループで調査・研究活動を行っているのだが、どれも単なる教科としての調べ学習に終始しており、市民としての責任や生き方の問題に迫れないでいた。

中国の総合学習は、昨年から全土の小中学校で試行が始まっており、来年度から完全実施される。

付属小では週３時間実施しており、「総合実践活動」と呼ばれ〈研究的学習〉〈社会実践〉〈情報技術教育〉〈労働技術教育〉の４領域からなっている。国家によってこうした領域が定められているものの、学校や地域によって自由にアクセントがつけられるようになっている。熊校長先生の話によれば、ネックは、教師の不足と、問題意識をどう高めて課題づくりにつなげていくかという点にあるとのことで、日本とそれと大きな差はなかった。

興味深かったのは、教職員の給料に話が及んだときで、付属小の教官の平均的収入は月２０００元（１元≒１６円）、ほかには土・日曜日の指導の謝金として４０元ほどが加わるとのことであった。

週末の２日間は社会主義少年団の活動のほかに、芸術や体育部門の活動が学校を単位として実施されており、これらに参加する子供の家庭から月謝を徴収するシステムになっている。

学校週５日制が完全実施された日本のいくつかの地域で実施されているサタデースクールを思い出し、思わず苦笑してしまったが、社会主義国の中国が義務教育の年限の子供の尾学習に堂々と謝金を取るという割り切りのよさにかえって親近感を覚えた。

中国研修旅行に参加して　（NO 2）

歴史の重さ

東京・小林和子

熱は下がったが、腹痛は治まらない。
この度の旅行で、私は大連・旅順はどうしても自分の目で見たい、確かめたいという思いがあった。何としても体調を整えて重い歴史の１ページを読みたかった。王さんが子供の時から親戚同様のつき合いで、可愛がってくれたと言うシュウさんが車で案内してくださる。

◈**旅順港**・・今は軍港となっており、門番が厳重に警戒している。うろうろ歩いていると拘束されるということだ。地元の漁師が漁をしていて捕った魚を売っているが、いつ捕った魚なのか元気がなく直射日光に照らされている。

河口近くの海草が浮いている中を、パンツ一つで子どもたちが水遊びを楽しんでおり、のどかで平和な光景に見える。ロシア建築風の旅順駅は今なお使われており、多くの日本軍がこの地に送られてきた。戦争という愚かな行為がどれほど多くの人々を殺し、悲しませたことか。拭い去ることのできない歴史の重みを今さらながらに思う。

◈**二〇三高地**・・１９０４年２月、日本とロシアは朝鮮半島、中国東北地方の支配権をめぐって激突、日露戦争が始まる。二〇三高地は日露戦争最大の激戦地である。海抜２０３ｍの中腹まで車で行き、残りの坂道を歩きで登る。赤い半てんを着た屈強なカゴ屋が乗らないかとしつこく追ってくる。１００元だという。観光客のためとはいいながら、壮絶な戦いの場をカゴ等に乗って訪ねる等許されるだろうか。

山中には、探せば人骨が無数にあるに違いない。頂上には、爾霊山と記された記念碑が建っている。乃木希典将軍の次子保典が戦死した場所は、夏草がすっかり生い茂っていた。石を積み重ねて造った豪もそのままの形で残されている。頂上から見下ろせば、眼下は旅順港であり、周囲の様子は隈なく視野に入れることができる。よくぞこのような有利な山を手にしたものだ。司馬遼太郎の「坂の上の雲」が思い出される。

◈**水師営会見所**・・日露両国の代表が日露戦争終結のために会議を行った場所である。

日本側は乃木希典大将が奥に、ロシア側ステッセル将軍が手前に、粗末な木のいすに座した。歴史的な会議は、ごく普通の農民が住んでいた農家で行われた。現在の者は２代目、年老いた中国人の案内係りが丁寧に敬語を使って説明している。

以後、日本をはじめ世界中を巻き込む戦争への道を歩むことになる。

研修旅行を終えて

（１）中国の教育事情の一端を知るよい機会であった。社会主義国での公教育がこれから何を目指そうとしているか。それが、教育課程に昨年度から１，２年生に生活科、３年生以上に総合学習の設置という形に表れているように思われる。

大連で、公立小学校の先生方と話す機会があり、なぜ中国が生活科や総合学習を必要とするのかを尋ねると、「教育の国際化」を目指しているという。また、背景に子供自身の体験不足の深刻さもあると聞いた。
１年生から英語の授業が週３時間設定されている。今回は付属小学校の参観であったが、ごく普通の公立小学校の様子も参観してみたい。

（２）授業を参観した中で感心したことの一つは、徹底すべきことはきちんと徹底して身に付けることである。音読、自分の考えを話すという表現活動はよく訓練されていて、腹から声を出して堂々としている。自信をもっているということだろう。

漢字については３，４年生までに徹底的に訓練する。さすがに漢字文化国だけあって、書く、読むは欠かせない基礎基本のようだ。

満州の地平線に沈む陽

東京・砂原誠一

日本と中国の国交正常化から３０年目の記念すべきこの年に全個連の海外研修旅行に参加し旧満州の首都が置かれた長春を訪れることができたことは、私自身にとって大変意義深いものであった。

私はこの土地に、いつの頃からか分からないが、まだ見ぬ恋人へのある種の「憧れ」のような思いがあったからである。また、この地は我が伯父が満州事変で戦った土地であり、司馬遼太郎の小説の舞台でもあったからである。そんなことで、皆さんの心配をよそに、一日一人で自由に歩き回る我が儘お許しいただいた。

すぐに、私は長春駅に向かった。私が想像してやまなかった「大陸鉄道の車窓から眺める満州の地平線に沈む太陽」を見たかったからである。

そんな私の思いを実現することは容易なことではなかった。まず言葉の壁にぶつかった。当然予期されたことではあるが、そのために時間は費やされた。時刻表を見ながらハルビンへの列車を１２時４０分発のＫ３９と定め出札を請うた。

しかし、コンピュータではじき出された切符は３時３６分発のＫ５７／５６であった。とにかく列車に乗り込むことができた。やっと乗り込んだ列車の中は満員、大きな荷物を担いだ人々、買い出しであろうか。戦後しばらくみられた日本の風景と重なる。事ほど左様に、席を取ることも容易なことではなかった。

結局、地平線に沈む太陽はみることができなかったが、延々と広がる満州の大地を垣間みることはできた。馬がのんびりと草をはむ姿を見た。高粱の畑が延々と続く景色を見た。憧れの恋人に会えたと思った。

末尾になってしまったが、今回の研修から私は、中国の先生方の教育の現代化にかける若々しいエネルギーと情熱を感じ取った。我々は彼らから学ばなければならない。

——时刻表——

北京⇄天津⇄秦皇岛⇄沈阳北、丹东⇄哈尔滨

K27	K39	K57/56	K189/188	K215	车次		K28	K40	K58/55	K190/187	K216
北京	北京	上海	上海	北京	自北京起	始发	丹东	图里河	哈尔滨	沈阳北	图们
17:25	22:50	9:21	17:10	14:20	公里		18:56	19:29	14:01	11:05	9:40
丹东	图里河	哈尔滨	沈阳北	图们		终到	北京	北京	上海	上海	北京
7:28	8:33	16:31	22:00	15:50			9:21	5:20	21:36	15:05	11:22
143	146	276	206	177		硬座票价	143	146	276	206	177
263	289	499	373	322		硬卧票价	263	289	499	373	322
400	457	770	570	494		软卧票价	400	457	770	570	494
V 17:25	V 22:50	换93页	换93页	V 14:20	0	北京	— 9:21	— 5:20	转92页	转92页	— 11:22
↓	↓	↓	↓	15:08	72	廊坊	↑	↑	↑	↑	10:30 ↑
18:55	0:20	1:23	11:11	56	133	天津北	52	49	11	32	44
19:03	28	31	20	16:04	137	天津	7:44	3:41	5:03	22:24	36
↓	↓	↓	↓	37	177	塘沽	↑	↑	↑	21:48	9:00
↓	↓	↓	↓	↓	210	汉沽	↑	↑	↑	↑	↑
20:33	1:58	3:01	12:50	17:40	260	启山	14	11	33	21	8:00
36	2:01	04	54	44			6:11	2:08	3:30	20:17	7:56
↓	↓	↓	↓	18:36	332	滦县	↑	↑	↑	22	6:59
↓	↓	↓	↓	↓	373	昌黎	↑	↑	↑	39	↑
22:16					401	北戴河	4:28			↑	
↓	↓	4:54	↓	19:41	423	秦皇岛	↑	↑	34	18:02	53
		57		45					31	59	49
50	4:08	5:16	15:04	20:05	439	山海关	58	0:01	17	45	35
58	16	24	12	13			46	23:53	1:09	17:37	5:27
↓	↓	↓	16:07	↓	504	绥中	↑	↑	↑	46	↑
↓	↓	↓	40	↓	551	兴城	↑	↑	↑	↑	↑
↓	↓	↓	59	↓	572	胡芦岛				16:00	
0:51	6:09	7:17	17:34	22:07	623	锦州	45	52	08	23	25
54	12	20	38	10			1:29	21:49	23:05	15:19	3:22
↓	↓	↓	18:20	49	686	沟帮子	↑	↑	↑	39	42
			23	23:03						36	40
↓	↓	↓	=	↓	728	大虎山	↑	↑	↑	=	2:13
=	=	=	52	=	717	盘锦	=	=	=	14:05	=
=	=	=	20:01	=	794	营城	=	=	=	13:02	=
=	=	=	32	=	830	鞍山	=	=	=	31	=
=	=	=	55	=	855	辽阳	=	=	=	12:08	=
3:28	8:47	=	21:45	1:04	919	沈阳	23:00	20	=	20	27
43	9:02		53	15	865		22:45	19:05		12	0:17
=	=	9:54	22:00		922	沈阳北	=	=	36	11:05	
		10:02		转173页	868				20:28	∧	换173页
4:52	=	=			851	本溪	21:38	=	=		
6:40	=	=			1088	凤凰城	19:47	=	=		
7:28	=	=			1148	丹东	18:56 ∧	=	=		
	11:14	12:10			1054	四平		16:53	18:23		
	12:32	13:28			1170	长春		34	17:02		
	40	36						15:26	16:34		
	↓	15:12			1310	扶余		↑	15:19		
	↓	47			1361	双城堡		↑	40		
	15:23	16:31			1412	哈尔滨		45	14:01		
	38	—						12:30	∧		
	转190页							换191页			

注：K39次每周一、三、四、日由北京始发，每周二、四、五、一终止齐齐哈尔；每周二由北京始发，每周四终止图里河，每周五、六停运。

K40次每周二、三、六、日由齐齐哈尔始发，每周三、四、日、一终到北京；每周日由图里河始发，每周二终到北京，每周四、五停开。

盘明太阳能集团祝您一路平安

↑屈託のない子供たち

←生活科で自分の成長を調べる学習

中国研修旅行を終えて

この度の中国の研修は、東北師範大学付属小学校の、熊梅校長先生の招聘で実現しものである。３８歳の若き熊梅校長先生のリーダーシップの下、教育の現代化、国際化が図られようとしているありさまを目の当たりにして、かっての中国を思うにつけ、その変化は感嘆の一言に尽きた。

子供たちは、共産党員の証である赤いリボンを首にまいてはいるが、子供らしい無邪気で屈託のない笑顔や所作は、日本の子供とまったく同じである。

熊梅校長先生は、筑波大学に留学され、日本の教育を学ばれた。生活科や総合、オープン教育にも強く関心をもたれ、帰国後師範大学付属小学校で個性化教を始めていらっしゃる。１年後に完成するオープンの校舎が待ち遠しい。聡明な若きリーダーとそのスタッフに心から感謝と活躍に声援を送りたい。

（東京・中澤 米子）

↑　中国の学校の１日は長い。行間体操をして気分転換を図る

↓　朝会では、総合学習で優秀だった５年生の男子が国旗掲揚の大役を果たしていた。その後後教室へ、服装は自由？

もう一つの実践・国際交流

全国個性化教育研究連盟海外研修のあゆみ

全個連が、オープン教育や総合的な学習で、日本の教育界で常にオピニオン・リーダーであり得るのは、こうした国際交流の研究の成果でもある。

回	国　名	年　度	見学先・研修内容
1	アメリカ	１９８８年	全個連最初の海外研修、ウィスコンシン州を中心にアメリカのオープンスクールの見学。
2	アメリカ	１９９０年	アメリカのオープン教育の見学、ボストン校外のＥＤＣ（教育開発センター）でコンピュータ等が教育でどのように使われるか見学。
3	イギリス	１９９２年	イギリスのランカシャー地方の小中学校のインフォーマル教育・総合教育の見学
4	韓　国	１９９３年	韓国オープンスクール研究会と全個連夏期研究会の合同開催、泳薫国民学校のオープン教育見学。
5	アメリカ	１９９４年	アメリカにおけるティーム・ティーチングの実際を見学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、ウィスコンシン大学見学
6	オーストラリア	１９９６年	イギリスのインフォーマル教育の影響を受けたオーストラリアの教育の現状と総合学習の実際を見学
7	台　湾	１９９７年	台湾開放教育学会との交流、台湾のオープンスクール建設に向けた台北市の小中学校の教育視察
8	ドイツ	１９９８年	東西統一後のドイツの教育の現状視察、シュタイナーの学校見学
9	フランス	１９９９年	フランシュ・コンテ地方の学校見学、 スクール・アラウンド・ザ・ワールド研究交流会
１０	台　湾	２０００年	台北市のオープンスクール見学（永安小・健康小・新生)、基隆市の学校視察
１１	台　湾	２００１年	永安小・健康小・新生小學の英語教育の現状視察。
１２	中　国	２００２年	中日開放教育交流研究会開催、東北師範大学付属小学校訪問.